

## エベレスト・ローツェ遠征 2016 報告書

東京経済大学経営学部3年の伊藤伴です。

この度は昨年に引き続き私のエベレスト挑戦に、多大なるご支援、ご協力をいただき本当にありがとうございます。お陰様で世界最高峰エベレストに登頂することが出来ました。また、三日間だけではありましたが思いがけず日本人最年少登頂記録を更新することができ、さらに世界第4位の高峰ローツェにも登頂することが出来ました。

4月8日、韓国の仁川を経由し、ネパールの首都カトマンズへ。

翌日からトレッキング開始。有名なナムチェバザールやタンポチェなどを通り、高所順応をしながら、前回も登ったロブチェイスト(6119m)を目指します。途中の村の家屋など現在は、昨年の地震の被害はだいぶ復旧しており、トレッカーなどの観光客の受け入れ態勢はほぼ完全に復興していると感じました。

ロブチェイストはベースキャンプ(BC)からキャンプ1(C1)まで1日。C1から頂上、そしてBCまで1日というのが通常です。しかし、今回僕らはトレッキングの段階から調子がよく、昨年も登っていたこともあり、本来エベレストで行うはずの高所順応をロブチェイストの山頂に宿泊して行うことにしました。

山頂にはお昼頃到着。6000mにもなると高度障害で強い睡魔に襲われるのですが、ここで寝てしまうと高山病になってしまいます。そこで隊員みんなでお互い寝てしまわないように起こし合って、就寝時間の21時まで過ごしていました。睡魔と戦うのはとてもつらかったですが、日が沈むと月明かりに照らされたエベレストが目の前に。雪に月明かりが反射してとても明るいのです。またエベレストBCにも灯が点り、なんとも素晴らしい景色でした。

こうして6000mまでの順応を終え、いよいよBC入りです。

BCの標高は5300m。すでに6000mまで順応を引き上げているので、次は7000m(C3)まで順応をします。

昨年は行くことが出来なかったBCより上部。初めてのアイスフォール、ウエスタンクーム、ローツェフェース。順応ではローツェフェースの途中にあるC3まで行ってきました。流石に無酸素での7000m超えは少し辛かったのを覚えています。そして休養のために一度BCに降ります。

BCに降りてからは天候待ちの日々が続きます。その間リフレッシュのために標高の低い村に泊まりに行ったり、洗濯、洗髪をしたりと各々自分の好きなことをしています。

そして5月16日。アタック開始です。この日の行程はC1を飛ばしてC2へのダイレク

ト。約 12 時間の行程です。早朝 5 時に BC を出発。危険なアイスフォールを 6 時間ほどで通過し C1 へ。そのままウエスタンクームを通り C2 へ向かうのですが、とにかく暑いのです。標高 6300m くらいなのですが、ウエスタンクームはまわりをエベレスト、ローツェ、ヌブツェに囲まれているので、光が反射し僕らに集まってくるのです。汗をかきながら約 6 時間ほどかけて C2 へ。

17 日。この日は平均斜度 45 度のローツェフェースの途中にある C3 への移動です。前日の C2 ダイレクトの疲れが残っていたのか前回の順応時よりも格段に辛く、この日はものすごく風が強くて何時に C3 に到着したか時計を見る余裕もないほど疲れ切ってしまいました。しかし、C3 の夜から酸素を吸引します。前日の C2 では夜中息苦しくて何度も目が覚めてしまっていたのですが、酸素を吸っての C3 の夜は疲れていたのもあってか熟睡することが出来ました。

18 日。C3 から最終キャンプの C4 へ。睡眠時酸素を吸ったおかげか、前日よりも楽に感じました。ルートは前日同様急傾斜。ローツェフェース上部のジェネバスパールをトラバース（山岳用語で横断するということ）し、お昼頃には C4 へ到着。C4 はエベレストとローツェのコル（山の鞍部）にあり、比較的平らなところにあります。ここで仮眠をとり、夜中に最終アタック開始です。

19 日。夜中 10 時起床、11 時出発。この日は登山者がとても多くひどく渋滞していました。太陽が昇るまでは極寒の世界で、高所用ダウンスーツを着ていても寒さで震えが止まりませんでした。それでもなんとか 5 時ごろには 8600m のバルコニーに到着。ここから稜線をひたすら登ります。途中あまりにも遅い人がいると、命綱である固定ロープを外してピッケルで登って追い抜く場面も何回かありました。

そして南峰に到着。南峰に登ると目の前に世界最高峰エベレストの頂が。そこから少し下りエベレスト最大の難所ヒラリーステップを登ります。エベレストに初登頂した登山家エドモンド・ヒラリーが最後に苦しんだといわれています。

ここを越えると、山頂稜線です。一步一步確実に歩きます。そしてついに山頂 (8848m)。

風がとても強かったのですが、空は快晴。振り返ると眼下には、ネパールの地平線まで続く岩と雪と氷のヒマラヤの山々が広がっています。反対側をみるとチベットの茶色の大地が地平線まで続いています。最高の景色です。この時点で日本人最年少登頂記録を 13 年ぶりに更新しました。

そして C4 に 5 時過ぎ頃に到着。崩れるようにして眠りにつきました。

翌朝 20 日は 10 時ごろ起床。他の隊員たちは C2 に下山する中、私と近藤隊長はエベレストのお隣の世界第 4 位のローツェ (8516m) に登るべく、ローツェ C4 へ移動です。ローツェ C4 は C3 よりも急な斜面に若干斜めにテントを張ります。そこで仮眠をとり早朝にアタックをかけます。

21日。早朝7時ごろC4を出発。エベレストよりも明らかに斜度がきつく、疲労が蓄積されているのかペースが上がりません。それでも何とか8400m付近まで登ってきました。すると、突然固定ロープが途切れました。実は前々日の19日にこの場で滑落事故が起き、シェルパさん1名が亡くなっていたようで、固定ロープが山頂まで完成していなかったということでした。それ故、今年はまだ誰も登っていませんでした。それでも僕らは少しでも上がろうということで、残置のロープを拾ってきて繋ぎ合わせ、それを近藤さんがリードで伸ばしていきスタック方式で登って行きました。そしてついに登頂。8000m二座を51時間で連続登頂に成功しました。

しかし、この日の行程はこれで終わりではありません。もう酸素ボンベが無いので酸素なしでも生存出来る6000m台のC2まで降りなくてはなりません。8500mから6500mまで標高差約2000mの壁をひたすら降りていきます。流石に8000m峰二座連続登頂の疲労は相当なもので、1ピッチごとに座り込んでまた歩いての繰り返しです。ようやくC2に到着したのは23時。そこから水を作りご飯を食べ、ようやく眠れたのは3時でした。

翌日BCまで下山。最初BCに着いた時は、こんな氷の大地に1カ月もいるのかと思いましたが、上から降りてくるとBCは本当に天国に見えました。それほど過酷な環境にいたのです。

そして下山し首都カトマンズへ。他のメンバーはすぐに帰国しましたが、僕は昨年同様に少しでもボランティア活動が出来ればと思いネパールに残ることにしました。結果として今回は直接的な支援活動は出来なかったのですが、昨年より多くの場所を視察することが出来ました。

ポカラやその周辺、その道中、パタン、バクタプル、カトマンズ周辺の世界遺産など。街の中心部やエベレスト街道はどんどん復興してきていて、観光客が訪れてもほとんど不自由なく観光できます。ホテルやロッジも修復、補強がなされていて安心して宿泊することが出来ます。

世界遺産は未だ傷跡が目立ちますが、むしろその傷跡も遺産にしようという動きもあるようです。それでもまだまだみどころは沢山あるように感じられました。昨年よりは街も山もだいぶ活気が戻りつつありますが、やはり震災前と比べると観光客、トレッカーは少ないように感じられます。

いくら街が元通りになって復興したように見えても、観光客が来なければ彼らは収入が無く生活することが出来ません。それでは本当に復興したとは言えないと思います。ネパールは怖い、危ないと思われる方も多いとは思いますが、確実に復興は進んでおり、ネパールの人たちは我々観光客を温かく迎えてくれます。一刻も早く観光客が戻ってほしいと思っています。

今回多くの支援は出来ませんでしたが、これで終わりではなく長い目で見てネパールの

ために少しでも力になれるように携わって行きたいとおもいます。そして、私自身の登山も次の目標に向かって進んでいきたいと思ひます。

昨年のエベレストへのチャレンジでは約780万円、今年のチャレンジでは約650万円の遠征費用がかかりました。皆さまからの募金を登山費用に使用させて頂きました。改めて今回の皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。これからも私の進一層のチャレンジを温かく見守っていただければ幸いです。

以上

2016年6月23日

伊藤 伴